

会報 なかさと

E-mail nakasatokouryusenta@net1.jway.ne.jp

中里学区コミュニティ推進会
 発行責任者 石川 諒一
 編集事務局 皆川 汪
 TEL 0294-70-8005

中里学区人口 R5、6、1現在
 世帯数 428
 総人口 967
 男 458 女 509

今年6月初旬学校のグラウンド全面に深緑の芝が張られ新校舎と一体になり壮観な景観です。

石川諒一コミュニティ会長談では、今年4年ぶりにこの芝グラウンドにて中里小中学校児童生徒・父兄・地域合同の体育祭を10月1日(日)に開催することです。

令和2年2月に初めてコロナ感染が国内で確認され、各地でこの未知の感染対策にあらゆる行事の中止が余儀なくされ、コミュニティも断絶の状況が続いた。特に合同体育祭は、令和元年10月以降4年ぶりの開催となります。

今年度は新校舎を背景に、新張りの深緑グラウンドで開催しますので皆様方のご参加お待ちいたします。子供たちと地域代表に声援し盛り上げましょう。

更に、石川コミュニティ会長談では11月には文化祭と同時に行うふれあい祭りについても4年ぶりの実施を考えているとのこと。敬老会については他部所との調整もあり実施未定となっておりますが確実にコミュニティの行事が行われるようになり、地域活性化に重要なことである。



新校舎を背景に整備された天然芝のグラウンド

中里小中学校のグラウンドも完成し今年も合同体育祭10月に開催します。

米づくり体験を授業に取り入れている中里小中学校、下深荻町宿下の田んぼ2畝歩(2アール・60坪)に5月10日(水)初夏の日差しの中、小学生全員で田植えを行った。毎年田んぼの提供と、指導を頂く草地形雄さんの合図で、日差しの中でもまだ冷たい泥の中に足を入れ歓声と悲鳴入り混じるなか苗を植え始めた。

一列一列植え進み、田んぼならではの土の感触、水を含んだ泥が手足に吸い付く、秋には一面に実った稲を刈り取る。季節の変化を全身で感じられる貴重な経験の授業である。このような授業を子供に与えることは大いに意義があり豊かな感性が養われ食物に対する理解が深まり、更に地域農家の人や他児童との交流を持つことにより、様々な立場の人との適切なコミュニケーションが身に付き生産や収穫の喜び、食料の大切さを実感し食料を大切に扱う様になる。また、田植え体験を通じ、田んぼにいるオタマジャクシやドジョウなどなかなか見られない生き物を通し生態系を学ぶことができる。

子供たちは毎年良い体験授業ができる。

最後に、毎年田んぼの提供と日常の手入れ、子供達への指導を頂き地域としても感謝したい。秋収穫したお米は、全員で分けて自宅で味わってもらいます。



今年も田植えやりました



広報活性部長に就任しました。地域活動に参加させて頂きます

令和5年中里学区コミュニティ推進会の広報活性部長に良子地区の後藤辰夫氏が就任されました。同氏は日立市十王中学校校長、最終は大みか小学校の校長を歴任し定年退職され、現在中里地区良子で第二の人生を楽しんでおり、聞くところによると、奥さんと二人で田んぼ約5反歩の稲作と併せ自家消費する野菜の栽培をしているそうです。同氏は趣味も多彩であらゆるサークルを通じて行動中です。今後のさらなるご活躍を祈ります。



新広報活性部長の後藤 辰夫氏

【広報活性部長に就任しました】 良子地区 後藤 辰夫氏 投稿

今年度、広報活性部長になりました良子地区の後藤辰夫です。初めての役員ということで、活動内容をよく理解しておりませんが、先輩方のご指導を頂きながら務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

さて、私ことですが、退職して十数年がたちますが、今でも地元同級生の集まり(「中里26回」と呼んでいます)を楽しんでいます。

登山、飲み会、蕎麦会、同窓会、ゴルフ等々。特に、登山は三十数年前から始め、福島、栃木、山梨、長野県の山々をはじめ、遠くは岩手県の池峰山まで遠征し、五十回近く続いています。車中や下山後の温泉での一杯がたまらないとなかなかの好評です。

ここ数年はコロナ禍のため中止していましたが、また再開しようと計画中です。これからも仲間といろいろな場面での交流を深め、楽しい充実した日々を送っていききたいと思っています。

今後益々のご活躍期待いたします。

以上

長寿大学開校式開催、出前寄席で笑いました

7月1日(土)中里交流センターで、第1回の長寿大学の開校式に併せ、出前寄席で楽しみました。今回参加者33名で、曾澤修学長の開校宣言後石川諒一コミュニティ会長の開校祝辞、いばらきねりんスポーツ大会での快挙の報告を頂き開校された。今年の長寿大学入学生は40名で開校されます。

笑いと楽しい友人との会話は、処方せんなしの健康の薬です

今年の第一回長寿大学は、出前寄席で「江戸情緒あふれる古典芸能を楽しもう」と真打落語家の、初音家左橋さんを招き、一般入場者の22名を合わせ55名で落語を楽しんだ。「暫くぶりに大笑いし、友達と会話も楽しみ軽やかな気持ちです」と話していた。笑いと楽しい会話は健康のための薬です。



会場は笑いと拍手で盛り上がりリラックスモードに包まれ、粋な落語を楽しんだ



初音家左橋

今年の歩く会 雨の中でしたが楽しみました

昨年は花貫溪谷を歩き、今年の歩く会は、コロナ感染も少し落ち着き、体育部（綿引千尋会長）主催で、6月11日（日）44名の参加者がありましたが、あいにくの雨のなかでの実施となった。

当初は奥日光散策の予定でしたが雨も止む気配もないので、急遽宇都宮大学日光自然ふれあいハウスにおいて、昼食と休憩。

帰路のバスの中で、環境対応に対するクイズ問題を出し、珍回答に爆笑、模範解答に共感、最後にビンゴゲームで盛り上がった。



この時期のリンゴ園・ブドウ園を尋ねました

6月に入り中里レジャー農園もブルーベリーが色づきよいよリンゴ・ブドウの季節もやってきます。この時期にどのような手入れをしているのかそれぞれの農園を訪問しお話を聞きました。

【リンゴ園】武藤 隆之氏

5月から6月は摘果作業と、除草作業が主で摘果は実を大きくし、除草は刈り取った草を有機物として土に還元される役目もあるとのこと。これからの作業は見直しの第二摘果、夏季剪定に除草と毎日続く。9月上旬になると漸く「さんさ・つがる」下旬に「ひめかみ」10月「陽光・新世界」11月になると「ふじ・こうとく」が出る。楽しみです。

【ブドウ園】與澤 一郎氏

5月下旬に花摘みほおわり、6月には房作りが始まった。専用の薬を使い、実を大きくし種なし処理を行っている。終わった房の各枝について小さな実を手作業ハサミで除去し一枝4〜5粒にする。いわゆる「粒入りの作業が大変だ」と言っている。ハサミを動かしていた。さすがに早い作業と感心。7月になると袋掛けをする。一段落だが、消毒作業が7月8月と実施しなければならぬ。

8月末に「巨峰」9月はマスカット系の「シナノスイート、タムユタカ」が初旬、「シャインマスカット」が中旬に収穫し店頭販売開始します。赤系の「ハイベリー」や「高妻」の黒系のブドウも9月には収穫され販売開始とのこと。レジャー農園もにぎやかになりますね。



摘果が終わり成長始まりのリンゴ

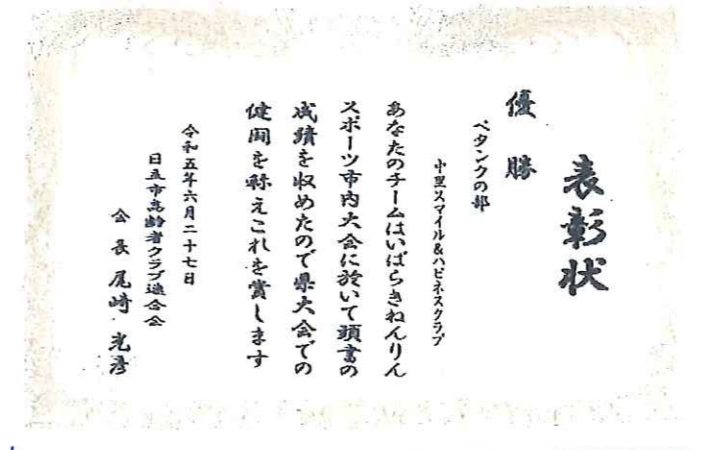


一房ごとに手作業で摘果作業のブドウ

いばらきねりんスポーツ市内大会で快挙

令和5年6月27日（火）中里スポーツ広場にて、いばらきねりんスポーツ市内大会が朝8時より開催され、ペタンク競技の部で日立市内より10チームの参加、中里学区より4チームでエントリーしトーナメント方式で熱戦が開始された。最終中里スマイル&ハピネスDチームが決勝に進出、青葉台翠会Aチームと追いつ追われつの大熱戦を繰り広げ、9対8で勝利。上位2チームは日立市代表として県大会に出場が決定、県大会は10月笠松運動公園で開催される予定です。県大会も突破し全国大会を目指せ！がんばれ！

中里スマイル&ハピネスクラブDチーム紹介
監督兼選手 會沢 康行氏 選手 吉成 光代氏 會沢 きみ江氏



市内大会1位の3人、全国大会目指します

中里の花が咲いている所を散策してパチリ！

6月頃の中里地区の花で有名なのは、バラ咲き誇る中里でしたが、コロナ禍と人気バラ園の坂本雅史氏（坂本バラ園）の腰痛の悪化で、一時閉園を余儀なくされ、バラの季節には一日200人〜300人の見学者でにぎわい、花の説明や接客で、坂本氏の友人知人が手伝いし対応したことが、楽しくまた懐かしい。

今でも電話でいつ再開するのか聞かれる状況だと坂本氏が話していた。そのような中、いばらき新聞とNHK放送で、下深萩の椎名典弘氏の「花菖蒲」園が紹介され暫くぶりに尋ねてみた。本園は令和3年にも広報誌で紹介したが、変わらず手入れされ花が咲き誇っていた。入口のアジサイも綺麗に咲いていたのでカメラを向けてみました。その後、SNSで気になっていたアジサイも見たく菊池守弘氏のドックランの丘にも訪問して撮影。双方とも自由に見学してくださいとのこと。



菊池守弘さんのドックランの丘のアジサイが見事に満開でした。

